

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0890800055		
法人名	医療法人 竜仁会		
事業所名	グループホームもみじ館 いちょうユニット		
所在地	茨城県龍ケ崎市寺後3937-10		
自己評価作成日	2022年10月20日	評価結果市町村受理日	2023年2月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0890800055-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町4637-2
訪問調査日	2022年12月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境のもとで、安心・安全な生活を大切に、尊厳ある毎日を自分らしく送っていただけるよう支援しています。また、地域とのつながりや家族との信頼関係を大切にしています。職員一人ひとりが専門職として日々学びサービスの向上に努めます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営母体が医療法人であり、利用者の健康面に不安がある時はすぐに対応され、安心出来ると家族から信頼を得ている。系列の特養・老健・有料老人ホーム・デイサービスとの連携を図っている。コロナ禍で面会に制限があるが、家族との関係を大切に思い、オンライン面会や窓越し面会を実施している。毎月、家族に写真入りの状況報告を送っており、家族が他の親戚にもそれを見せるなど楽しみにされている。感染予防対策マニュアルを作成し、必要物品・ガウンテクニック・ゾーニング・シミュレーションを実施している。***新型コロナウイルス感染対策としてオンラインで調査を実施。ホーム内の視察及び書類閲覧はモニター越しに行い、リアルタイムの映像で確認。**

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニットの入口や食堂等に理念を掲示している。事業所目標は理念を基に作成し実践につなげている。	玄関・ユニット入りロ・リビングの見やすい所に掲示し意識付けを行っている。理念と事業所目標を管理者・職員は共有し実践に繋げている。職員は利用者の気持ちに沿った支援の提供に努め、業務にあたっているとの事。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染防止対策の為、地域行事への参加や外出を含めた交流を持つ事が困難であった。自治会へは議事録を持参し、情報の共有に努めている。	コロナ感染予防対策のため、地域住民との交流は自粛している。自治会長に運営推進会議録を届け、事業所の取り組み等を伝えている。地域住民からの相談や見学にはアドバイスや説明をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年、地域の学生の実習受け入れ等を通じて認知症への理解を深めてもらえるよう努めているが、今年度は感染防止の観点から中止となった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、運営推進会議は市へ相談の上で中止とし、代わりに議事の送付を行なっている。返信いただいた要望について、出来る事を実践しサービスの向上を図っている。	書面で生活状況・事業予定・報告・インシデント報告・対策・研修等の議事録を行政・民生委員・自治会長・全家族に送付している。返ってきた意見はサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍の為、会議をどのように開催すればよいか相談させていただいた。また、運営上の不明点などを相談させていただいている。	担当課と連絡を密にとり、相談をしたりアドバイスを頂いている。学生の実習受け入れは自粛している。見守り支援事業所として登録している。子供110番は法人が登録。地域密着型連絡協議会・ケアマネ会は中止となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	もみじ館の他部署と共同で身体拘束廃止委員会を行っており、アンケート調査やeラーニングなどを用いた勉強会を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会が主体となり、併設施設や他部署と合同で委員会を開催している。アンケートやeラーニングで職員に振り返りと意識付けを図っている。拘束となる場合は家族に説明し同意を得て、解除に向けた取り組みも行う。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	もみじ館他部署と共同で虐待防止・人権擁護委員会を行っており、アンケート調査や勉強会に参加し、理解を深め防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングにて権利擁護に関して学ぶ機会を持ち、理解を深めるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に時間を作っていただき、利用者様やご家族に説明を行い、疑問点等について話し合い理解していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会・電話連絡時にご意見を頂戴し、内外共に情報共有し運営に反映している。施設の担当者並びに市町村等の相談窓口をご家族に伝えている。	面会や電話連絡時に意見を聞くようにしている。生活状況報告として、ありのままの利用者の様子を良い点・悪い点バランスよく書いて写真と一緒に発送している。それを心待ちにしている家族がいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事前に意見書を提出してもらい、ユニット・全体ミーティングで検討している他、適宜コミュニケーションを図り、運営に反映させている。	運営に関する報告がされている。現場の意見はその都度検討し改善している。ユニット・全体ミーティングは事前に備品と業務に関する意見書を出してもらい、スムーズな進行となっている。職員のレベルに合わせた目標設定・自己評価・面談を行い、職場環境の整備に努めている。資格取得の推進、外部研修受講を推奨し、個人のレベルアップに努めている。職員の様子に変化があった時は管理者が声掛けをし、話を聞くようにしている。管理者・ケアマネ・職員間に壁は無く、良好で働きやすいとの事。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を導入しており、本人のレベルに合わせた目標設定・自己評価を行い、総合評価にて昇給等に反映されている。また、面談を行い働きやすい職場環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリア開発室や介護教育委員会による研修計画に沿って研修の機会を設けている他、各委員会による研修も実施されている。また、外部研修の受講推奨、介護福祉士資格取得の推進を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍ではあるが、オンラインにて勉強会に参加。また、法人内の連携会議に参加し、サービス向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の声に耳を傾け安心できる関係づくりを心掛け、これまでの慣れ親しんだ生活を継続できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族やご本人と面談・調査を行い、十分に要望を聞いている。面会・電話連絡の度に生活の様子をお伝えしながら、ご家族の話も傾聴している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の状況を十分にアセスメントし、ご本人・ご家族にとってより良いサービスが受けられるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様のそばに寄り添い、コミュニケーションを図りながら出来る事・やりたい事を引き出し、日々の家事や楽しみを一緒にやり過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、利用者様の生活状況を手紙で報告し、利用者様からのご家族への要望などもこまめに連絡している。また、新型コロナウイルス感染対策の観点から、LINEを使用したオンライン面会や窓越し面会を導入している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染対策の為直接面会を中止し、LINEを使用したオンライン面会や窓越し面会を行っている。オンライン面会では、今まで来所が難しかった遠方のご家族、親戚等と面会する事も出来ている。	手紙や葉書、年賀状や電話で馴染みの大切な人と連絡を取り合う利用者がある。予約制で窓越し面会やオンライン面会を実施している。オンライン面会は遠方の縁者と会うことができ喜ばれ、利用者の様子が分かり安心するという家族の感想が聞けた。新聞購読を検討している利用者がある。便通に良いお茶を家族が届けてくれる。職員と利用者同士が寄り添いながら馴染みの関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が気持ちよく交流できるよう席配置を工夫し、交流が苦手な方や上手く話しができない方には、職員が間に入り、寄り添いながら支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	日頃より、何でも相談していただける関係づくりに努めている。今後、契約が終了しても継続して支援できる体制づくりに努める。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様には、直接暮らし方の意向を確認している。困難な方には、ご家族からの情報や日々に関わりの中から意向を把握し、本人本位の対応が出来るよう努めている。	利用者に意向を確認しながら個々の生活リズムに合わせた支援を実施している。得意な家事は自分の役割分担として率先して取り組んでくれる。困難な場合は選択できるような問いかけをし、表情や様子から本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前までの生活やサービス状況は、担当ケアマネージャーやご家族より情報を提供していただき把握している。入居後は新たな情報を得ながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室担当職員の気づきや個人の生活記録、健康記録により現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット別に3ヶ月毎にカンファレンス、モニタリングを実施し、現状に即した介護計画を作成している。	利用者・家族からの意見や要望を聞き、カンファレンスを開催してニーズとケアのあり方を話し合い、ケアプランを作成している。作成後は家族に説明し同意を得ている。3ヶ月毎にカンファレンスとモニタリングを実施し、現況に即したプランを作成している。利用者の1日の様子は24時間シートや生活暮らし記録に、重要事項は日誌に申し送りとして記載し、気づきや医療的な記録部分はマーカーで色をつけ、重要だとわかるように残している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活シートを活用し、24時間の記録をこまめに行っている。日誌には特に重要な申し送りを記載し、気づきや医療的な記録に関してはマーカーを引き、全職員が共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	感染対策の観点からご家族との直接面会を中止している為、LINEを使用したオンライン面会や窓越し面会を実施している。また、ご家族へ連絡した際などに要望を聞き、サービスへの取り入れられるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染防止の為、今年度は専門学校の実習生受け入れを中止、地域行事への参加は見送っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人及びご家族の希望を大切に、かかりつけ医による適切な医療を受けられるように支援している。	母体医療機関より月2回の往診と、週1回の訪看で利用者の体調管理に努めている。職員付き添いの場合は受診後に家族に報告し、報告したことも記録に残している。訪問歯科と連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回、訪問看護師へ日々の体調変化等について状況報告を行うなど連携を図り、適切に受診等の対応をとれるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は医療機関との情報交換を適切に行い、経過についても地域連携室と連絡を取っている。退院時には注意事項等の確認を行い、帰所後に適切なケアが行われるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に緊急時や容体が悪化した場合の説明をさせていただき、状態が変化した場合にご家族と話し合い、医療関係者と共に支援に取り組んでいる。今年度は1名の方の看取りを行った。担当医師・訪問看護と連携を図り、ご家族への連絡や看取り対応を細やかに進める事ができた。	今年度から希望があれば看取りを実施することになった。訪看と連携を図り、流れをフローチャートでまとめ、マニュアルを作成した。重度化前に医師・家族・事業所で話し合いこれからの方針を決めている。今年、家族の希望から看取りを実施し、担当医師や訪看と24時間連携を図って話し合いを重ね、最後のお別れが出来た。職員は不安を抱えながらも家族から感謝の言葉をもらい、大きな自信に繋がった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	安全管理に関する研修を年2回開催して予防に取り組んでいる他、緊急マニュアルに沿って急変や事故発生について職員へ周知している。AEDの訓練を入職時に実施。他職員については年1回実施しているが、実施形態を検討中である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災想定訓練にて、実際に近隣の一時避難場所まで利用者様と歩いて避難した。また、夜間想定訓練を図上演習にて実施した他、他部署と合同で河川氾濫時や大規模災害を想定した訓練を実施。停電・断水時の炊き出し、物品・非常食の確認や法人本部との情報共有訓練を実施した。避難時に備え、3日分の衣類・備品等を詰めた非常時持ち出しケースを常備している。	火災想定訓練を実施し、利用者と一緒に一時避難場所まで歩いた。夜間想定・水害等大規模災害を想定しライフラインストップ時の炊き出し等を法人本部と情報共有し訓練を実施した。発電機の購入を法人に要請中。震度5強以上の地震発生時は、自身の安全の確保が出来た職員が出社することになっている。備蓄品・緊急持ち出し用品は衣類を含め3日分用意している。以前は消防団と一緒に訓練を実施したが、コロナ収束後には地域住民との合同訓練を検討したいとの事。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇に関する研修を行い、利用者様へ丁寧に対応できるよう心掛けている。個人情報の保護に関しては、ミーティング等で周知し、実施している。	接遇研修を実施し、利用者の方を尊重した丁寧なケアの提供を心掛けている。情報開示に向けた同意書を取り交わし、個人情報保護に努めており、職員にも周知されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを大切にしながら、信頼・馴染みの関係を築いている。利用者様が思いや希望を訴えた際は、話をゆっくりと聞く時間を持ち、希望に添えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室に仏壇や位牌を安置し、手を合わせる時間を持つよう配慮するなど、利用者様が一人ひとりのペースに合わせ、可能な限り希望に沿えるよう支援行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服は利用者様が季節に合ったものをご自身で選べるよう、アドバイスをするなどの支援をしている。理美容はコロナ禍の為、不定期ではあるが実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月2回のお楽しみメニューや手作りおやつ等、利用者様の希望を叶えられるよう工夫している。利用者様には食事の準備、食器拭き、ランチョンマット拭き等をお願いしている。	配食業者から届いた冷凍食品を湯煎して提供。利用者の状態に合わせた食事形態で提供している。月2回はお楽しみメニューを提供し、利用者の要望に応えられるようにしている。利用者は出来る範囲でお米研ぎ・食器拭き・ランチョンマット拭き等を手伝う。年末年始に向けて年越そばとおせち料理の準備を進めていた。箸・飯碗・汁椀は基本的にマイ食器を使用する。食前の口腔体操・食後の口腔ケアを実施している。感染予防対策で職員は別に食事をとっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は制限食や食事形態、好みなど一人ひとりに合わせて対応している。水分量は入居後1週間はチェックを行い、1000ml以下の方は飲み物の工夫をしながら、継続的にチェック行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝食前と毎食後に口腔ケアを行っており、本人の状態に応じて支援し、清潔保持を心掛けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、状態に応じて声掛け、トイレ誘導を行い、トイレでの排泄を継続できるよう支援している。	個々の排泄パターン・チェック表・表情・様子からタイミングよく声掛け誘導を行い、トイレでの排泄に努めている。水分・乳酸飲料・体操等で便秘の予防に努めている。職員の細かなケアと本人の自立心から、リハパン使用の方が布パンツに改善した例がある。夜間帯のポータブルトイレ使用については、自立度により必要がある方に見守り支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の確保や牛乳・ヤクルトの提供、1日2回体操などを行い、便秘予防を行っている。また、排泄パターンを把握し、ここにに応じた支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴予定表に沿って声掛けを行い、体調や気分に合わせて、柔軟に入浴日の変更等を行っている。季節に合わせて入浴剤を使用するなど、楽しむことが出来るよう工夫している。	最低でも週2回は入浴できるよう予定を組んでいるが、その日の気分や体調により柔軟に対応している。利用者の状態に応じて、二人介助の入浴支援も行う。ゆず湯や入浴剤を提供し楽しんでもらっている。1対1になると昔話をしてくれる利用者がある。乾皮症の利用者には軟膏を塗っている。感染予防対策を実施している。巻き爪は訪看が処置。着替えは利用者を確認してもらいながら、職員が準備している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	馴染みの物を持参していただき、状態に応じて休息の声掛けをしたり、本人の生活習慣に合わせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの内服チェック表を作成し、2人体制で内服チェックを行い、誤薬の無いように努めている。内服の留意点なども職員に説明し、利用者様の状態観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力に合わせて、テーブル拭きや食器拭き、米研ぎ、ランチョンマット拭き、アクリル板拭きなど出来る事を行っていただいている。季節に応じた行事を企画し、季節を感じられるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染対策の為、敷地内や近隣への散歩のみ行っている。	コロナ感染予防のため外出支援は控えているが、桜を見に行ったこともある。日ごろは敷地内や近隣を散歩している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な物やご本人が希望する物は職員が買い物に行き、代金を施設で一時的に立替え、支払うことができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば手紙や電話を掛けられるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の壁飾りを利用者様と共に製作してリビングの壁に掲示している他、季節の吊るし飾り等で季節を感じられるよう工夫している。	季節の飾り物やわかりやすい手作りカレンダーを飾り、見当識に配慮している。換気・湿度・温度に注意しコロナ感染予防に努めている。食卓の席に名前を貼り、わかりやすくしている。隣のユニットとの往来は自由である。トイレの表示はわかりやすい。トイレはドアとカーテンが併設となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様同士で会話ができるよう、座席の工夫をしたり、一人でもゆったりと過ごせるよう工夫している。隣ユニットとの行き来も自由に行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ寝具等をお持ちいただいている他、ご家族の写真等を飾るなど、居心地の良い空間づくりに努めている。	居室入り口に表札と部屋番号、目印になる花等を飾り、自分の部屋と認識しやすくしている。名前の上には避難確認プレートが設置されている。ベッドとタンスが備えられており、大きな家具の持ち込みは無いが、仏壇・テレビ・テーブル・イス等を動線と安全面に配慮して設置している。遺影・木彫りの置物・家族写真・自作品等を飾り、安心出来る居室となっている。洗面台・居室の掃除は職員が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には表札を掲げ、必要に応じて場所や大きさを変更している。また、席にも名札を貼り自席が分かるように工夫している。トイレには目印となるものを貼り、場所や水の流し方が分かるように配慮している。		

(別紙4(2))

事業所名 : グループホームもみじ館

目標達成計画

作成年月日 : 2023年2月1日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33 (12)	訪問看護と連携を図り、勉強会及び看取りマニュアルの作成。実際に看取りも経験したが、今後の実施にあたって不安の声も聞かれる。	看取りマニュアルの周知及び看取りに関する学び直しを定期的に行い、看取りに関する知識の向上及び不安軽減を図る。	年2回程度、看取りに関する勉強会を実施する。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。